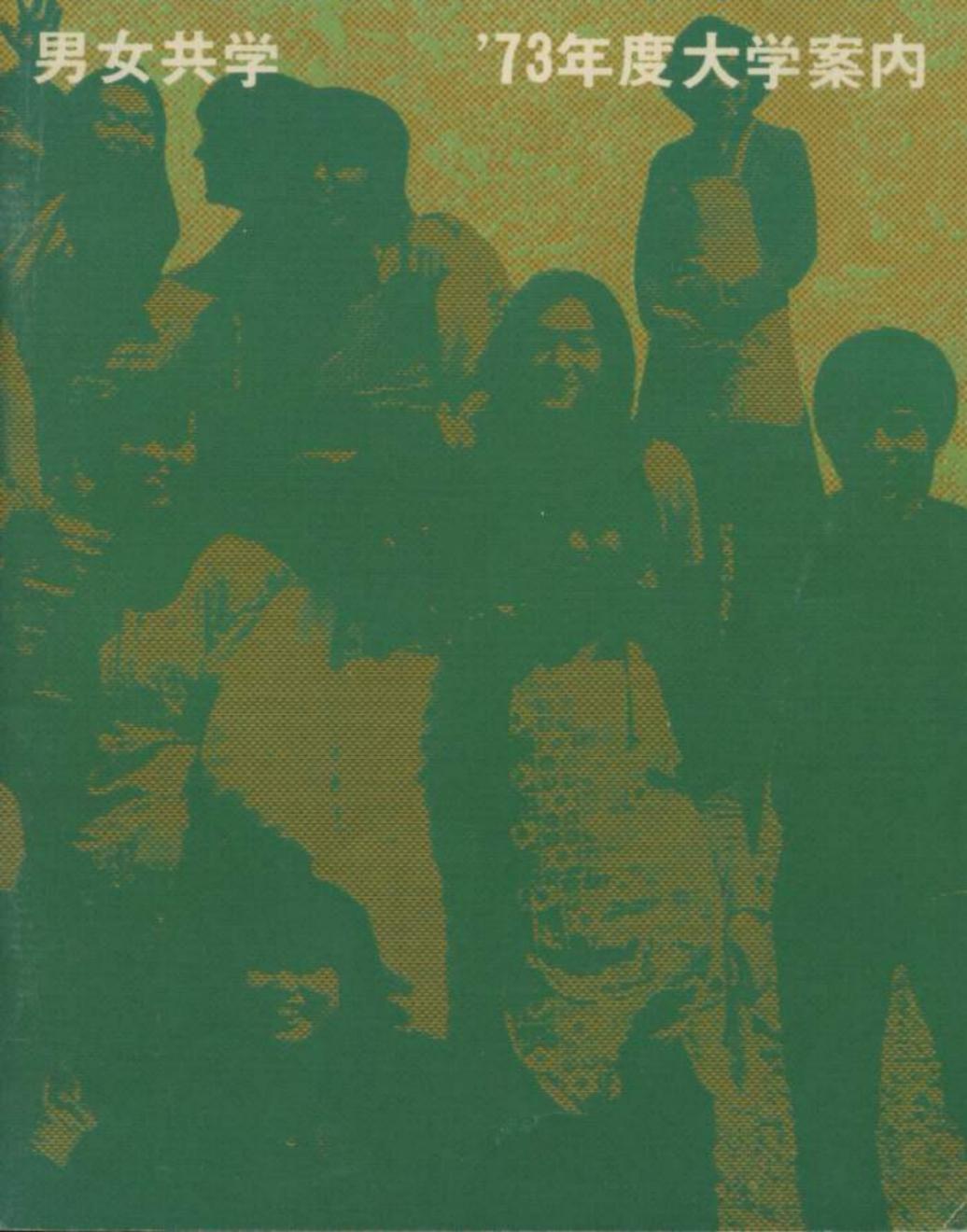


京都精華短期大学

男女共学

'73年度大学案内





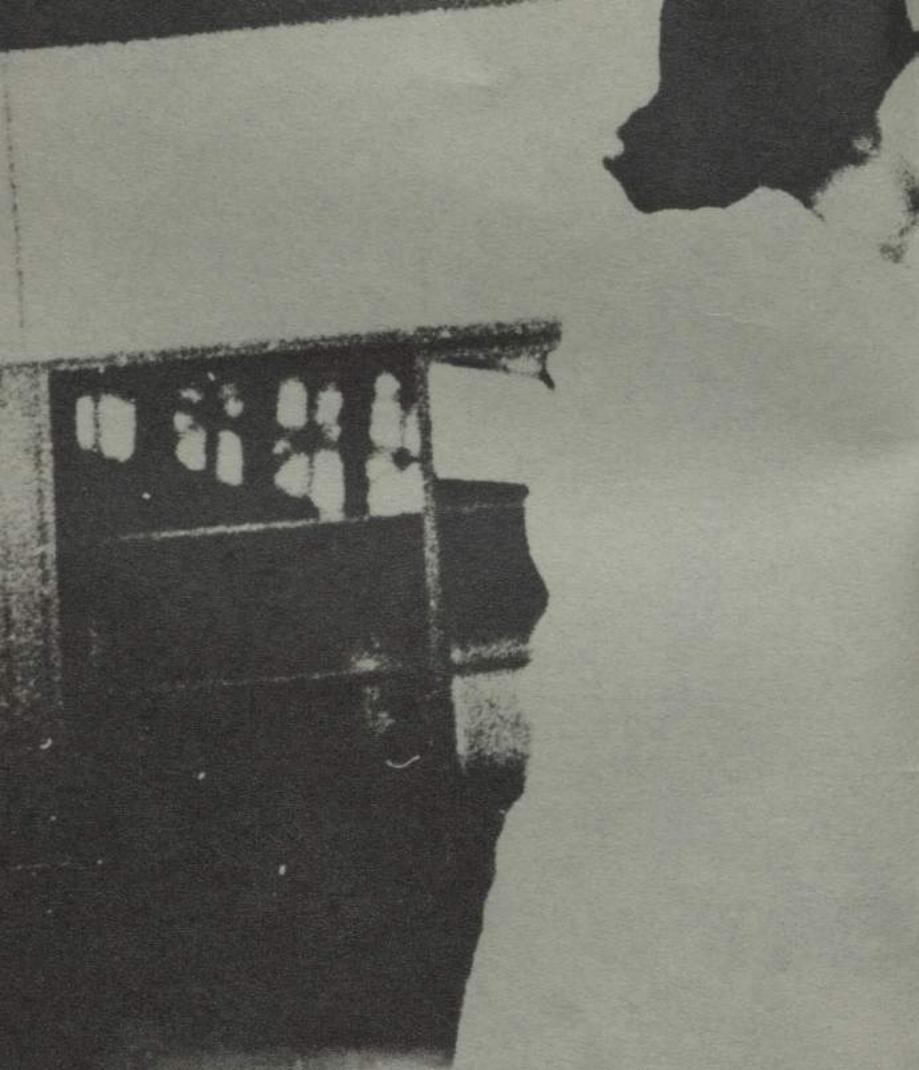
みなさんのみなさん / 2
入学案内 / 6
学習課程——一般教育 / 7
英語英文科 / 8
美術科 / 14
アッセンブリー・アワー ニュース / 24
座談会——あなたにとって
大学とは何か
寮生活とわたし / 32
顔——この人たちが、
みなさんと生活します / 38
教員と担当科目 / 68
'73年度英語英文科募集要項 / 72
'73年度美術科募集要項 / 74
卒業後の進路について / 78
本学案内図 / 80





わたしは、かつて、青春のもっともよい時代の20余年を、ある学園で楽しく、意義深く過したのであった。そこには、入試も、テストも、卒論もなかったが、学びたい人々がすすんで集まっていた。教える者にも、教わる人々にも、楽しい時間であった。一種の誇りをもって思われるのは、そうした親和力のなかで醸しだされた知的雰囲気だった。

しかし、それは今や遠く追憶のなかにのみ生きている過去のことである。ところが、とつぜん、わたしはそれに似かよった空気をこんにちの京都精華短期大学にみだしておどろいている。わが学園の教職員と学生が、いたるところで——学内で、途上で、電車のなかで——「こんにちは!」「さよなら!」となんのこだわりもなく挨拶を交わしている。また、食堂では、同じテーブルについて、談笑しながら、昼食をとり、コーヒーをのんでいる。それは小人数のクラスで、集中的な、熱心な、効果的な授業のあとのくつろいだひとときである。



こうした平凡な、あたりまえの光景が、こんにちの日本の教育に必要な
いか。しかも、それがいちばん欠けているものではないか。その欠乏が、わが
国の教育を乾からびた、味気ないものにし、知性と心情とが、車の両輪のよう
に、平衡を保つことを困難にしたのではないか。工場のように巨大な校舎がそ
びえたち、数千数万の学生と教師とを、精神的に引き離し、いっさいの人間的
接触と親和を不可能にしたのではないか。



わが学園は、まだ若い。いまようやく芽になろうとしている。その成長と
完成が期待されるべきである。この学園を創立した人々の理想と意気にわたし
は敬意を表したい。そして、いまようやく新芽をだしはじめたわが学園が、や
がて花を開き、実を結んで、みごとな伝統が創造されることを期待しよう。

なお、最後にひと言書き添えたいのは、盲人や聾啞の若人がすでに正規の課
程をおえて、社会にでていいることである。それは本人にとっても、家庭にとっ
ても、大きなよろこびであり、光であるにちがいない。

若人たち、父兄の方々、いちど、緑の丘にかこまれ、澄み切った空気と清冽
な山水にめぐまれたわが学園を訪れられんことを。

学長 / 宮本正清

英語英文科

- 貿易英語コース
- セクレタリー(秘書)コース
- ガイド・コース
- 英米文学コース
- 国際文化コース
- 専攻科

美術科

- 絵画コース
- デザインコース
 - ヴィジュアルデザイン・クラス
 - クリエイティヴデザイン・クラス
 - マンガ・クラス
- 染織コース
- 立体造形コース
- 専攻科

KYOTO SEIKA JUNIOR COLLEGE

